

友われら69

甲府市立北中学校便り 地域特別号
平成28年10月18日発行 編集 臼井

全国学力・学習状況調査

平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

全国調査の結果では、北中学校生徒は予習には積極的に取り組むが、復習については課題があること、また、国語・数学の知識・活用ともに、山梨県及び全国平均を上回っていることがわかりました。

この調査は、全国の中学3年生を対象として学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の学習内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

内容は、中学校2年までの国語、数学の学習内容についての「A主として知識」、「B主として活用」について調査します。

また、「質問紙調査」として、学校生活や家庭生活について、質問紙によって調査を行います。

上記について、各学校の調査結果を山梨県及び全国平均と比較して各学校に報告されましたので、それを生徒・保護者・地域の方々にお知らせするのが本号の目的になります。

1～2面に質問紙調査結果の特徴を掲載し、3～4面（裏面）に国語、数学の結果についての概要をお知らせします。

質問紙調査 分析結果の概要

- 朝食を毎日食べていますか。（ほぼ○）
- 毎日、同じくらいの時刻に寝て・起きていますか。（ほぼ○）

- 物事をやりとげて嬉しかったことがありますか。（ほぼ○）
- 自分には、よいところがあると思いますか。（× 全国・県平均に比較して低く課題）
- 友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。（○ 全国・県より高い）
- 将来の夢や目標を持っていますか。（ほぼ○）
- 学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどのくらいの時間勉強をしますか。（ほぼ 全国・県レベル）
- 学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどのくらいの時間読書をしますか。（ほぼ 全国・県レベル）
- 家の人と学校での出来事について話しをしますか。（○ 全国・県よりとても高い）
- 家の手伝いをしていますか。（ほぼ○）
- 家で、学校の授業の予習をしていますか。（○ 全国・県よりとても高い）
- 家で、学校の授業の復習をしていますか。（× 全国・県に比較して低く課題）
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。（ほぼ○）
- あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合ってきたりなどを決めていると思いますか。（○ 全国・県より高い）
- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。（ほぼ○）
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。（○ 全国・県より高い）
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。（ほぼ○）
- 新聞を読んでいますか。（全国や県平均より高いが、全生徒の半分に満たない）
- 国語の勉強は好きですか。（○ 全国・県より高い）
- 数学の勉強は好きですか。（○ 全国・県より高い）

全体的には全国や県の平均に近い結果となったが、充実した学校生活を過ごしている姿が見て取れる。

昨年度の課題だった家庭学習時間は全国平均並みになっており、予習時間の確保に対して復習に取り組む姿勢が課題になる。また、学校の授業については、開始時の「めあて」の明確な提示、終了時の「ふりかえり」は昨年と比較して向上している。

生徒の自己肯定感の低さについては、昨年に継続しての課題であり、学校の教育活動全体を通して向上させる必要がある。

国語

◎全体的な傾向

A 主として「知識」に関する問題

- ・全ての領域、評価の観点、問題形式において、山梨県及び全国平均を上回っている、特に領域別において「話すこと・聞くこと」は、全国平均を大きく上回っている。

B 主として「活用」に関する問題

- ・全ての領域、評価の観点、問題形式において、山梨県及び全国平均を上回っている、特に領域別において「書くこと」「読むこと」が、問題形式において「短答式」が、全国平均を大きく上回っている。

◎本校の優れている点

A 主として「知識」に関する問題

- ・「相手や場に応じた言葉遣いなどに気をつけて話す」や「互いの発言を検討して自分の考えを広げる」について正答率が高い。また、言語事項の設問についても概ね良好である。

B 主として「活用」に関する問題

- ・「文章の展開に即して内容を理解する」についての正答率が高い。情景や人物描写の読解に優れている。「課題を決め、それに応じて必要な情報の収集方法を考える」の正答率が高いのは、国語科の学習をふまえて全教科で言語活動を推進している成果と考える。

◎本校の課題

A 主として「知識」に関する問題

- ・「文字の大きさ、配列に注意して書く」「文の成分の呼応について理解している」という言語事項の問題の正答率が低かった。これらを「書くこと」の領域で、文章を推敲する視点の一つと取り上げ、書写や文法の学習の定着を図りたい。また、漢字の書きについては正答率の低い問題があった。(独創)

B 主として「活用」に関する問題

- ・「目的に応じて文章を要約する」について課題が残る。文章を要約したり要旨を捉えたりする際には、目的や必要に応じて情報を取捨選択して整理することが大切である。中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を正確に理解する必要がある。

◎本校の改善点

- ・書写の学習では、観点を具体的に示した上で書いたものを互いに評価し合う場面を設けたり、ノートや掲示物などを書く際に、書写で学んだことを活用したりするよう指導したい。
- ・情報を活用する力の育成がこれからますます必要となる。情報をさまざまな方法で収集させるとともに、

その情報の価値や真偽などを見極めさせることが大切になる。発信内容や方法も含め、情報に対する判断力の育成に力を注ぎたい。

- ・教科で学習したことが生徒の力となり、実際の生活の場で活かされるよう、国語科のみならず、全教育活動を通して指導していきたい。

数学

◎全体的な傾向

A 主として「知識」に関する問題

- ・全ての領域、評価の観点、問題形式において、山梨県及び全国平均を上回っている、特に領域別において「資料の活用」は、全国平均を大きく上回っている。

B 主として「活用」に関する問題

- ・領域、評価の観点においては全国平均を上回っている。問題形式では、「短答式」「記述式」においては全国平均を上回っているが、「選択式」においては山梨県および全国をわずかに下回っている。

◎本校の優れている点

A 主として「知識」に関する問題

- ・図形や関数、資料の活用についての正答率が高い。特に作図や立体の辺の位置、1枚の硬貨を投げた時の確率などは、具体物や作業を交えながら学習を進めてきた。その成果があらわれたと思われる。

B 主として「活用」に関する問題

- ・短答式のみではなく、記述式についても県、全国と比較して高い正答率を示している。途中式や式の意味を問う指導などを繰り返し行ってきたことで、本質的な理解につながったのだと考えられる。

◎本校の課題

A 主として「知識」に関する問題

- ・県や全国の平均正答率と比較すると上回っているものの、計算問題については県や全国を若干上回る程度である。計算技能の定着が不十分な生徒は、場合によっては小学校の学習から復習する必要があると感じている。

B 主として「活用」に関する問題

- ・グラフの傾きをが何を示すかを選択する問題について正答率が低かった。グラフが何を示しているか解釈することは授業の中でも行ってきたが、長文から読み取る力をつける必要があると感じている。

◎本校の改善点

- ・計算技能の向上を行う必要がある。小学校での学習を振り返りながら、計算する機会を増やすよう授業を組み立てたい。